

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

九州大学初のMOOC、いよいよ開講！ JMOOCから9月に開講します



教材開発センターでは、2014年4月から、MOOCのコンテンツ制作に総力をあげて取り組んできました。開発したMOOCが、いよいよ9月下旬にJMOOCから開講されます。MOOC(大規模公開オンライン講座)には、Coursera, edX や Udacity などのプラットフォームがあり、登録をすると、一流の大学の講義を無料で受講でき、コース修了認定基準を満たすと修了証が交付されます。良質な学習の機会が、よりフレキシブルに、そして身近になりました。このような教育のグローバル化の流れの中で、日本の地域性を考慮したプラットフォームが、JMOOCです。

九州大学のMOOCには二つの大きな特徴があります。第一に、JMOOCの他の授業では日本語が使われていますが、使用言語は英語で、世界基準の質を目指していること、第二にMOOCのコンテンツ制作を外注せずに、教材開発センターで独自に制作をしていることです。講座名は、「Global Social Archaeology (グローバル社会考古学)」で、溝口孝司先生と Claire Smith 先生が担当します。

是非、九州大学初のMOOC—Global Social Archaeologyに参加してください。考古学の出会いが待っています。

【安西 弥生 准教授】



JMOOC (日本オープンオンライン教育推進協議会)

日本版のMOOCを広く普及させることを目的とし、2013年に一般社団法人として、日本オープンオンライン教育推進協議会(略称JMOOC)を設立。2014年9月から、JMOOCの新たなMOOCsプラットフォームであるOpenLearning(株式会社ネットラーニング)より最初の講義コンテンツとして、九州大学が独自制作した「Global Social Archaeology」が開講する。 URL ▶ <http://www.jmooc.jp/>

※画面は開発中のものです。実際には異なる場合があります。

取材スタッフを逆取材？～ビデオスタジオについて取材を受けました～

KBC九州朝日放送の取材クルーが教材開発センターのMOOC講座制作の現場へ取材に訪れました。取材の当日は、大橋の教材開発センタービデオスタジオにて教材開発センターが制作しているJMOOCの講座「Global Social Archaeology」のプロモーションビデオ撮影が行われており、取材クルーは、その収録の様子や最新の機材が整備されたビデオスタジオの撮影用機器などを取材のビデオカメラへ収めていました。また、藤村教材開発センター長と、「Global Social Archaeology」講師の溝口先生へのインタビューも行われていました。

まだ、どの番組内で放送されるか現時点※では決まっていますが、放送予定が決まりましたら、ICERウェブサイトやTwitter、Facebookでお知らせをしますので、ぜひご覧になってください。お見逃しなく！

@ICER_KyushuUniv

<https://www.facebook.com/KyushuUniversityICER>

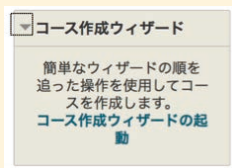
【栃原 幸恵 (テクニカルスタッフ)】

※2014年7月18日現在



Web学習システムにコース(授業)登録してみよう

2013年4月からWebCTに教職員自身がコース(授業)の登録を行なえるようになっていきます。



まず、Web学習システムにログインし、「コース」をクリックします。画面の左側の「コース作成ウィザード」というメニューで、「コース作成ウィザードの起動」をクリックします。

画面の最後の「次へ」をクリックし、必要な情報を入力していくと新しいコース(授業)を登録できます。コース名は授業名を指定します。学生が間違えないように最後に年度をカッコに入れましょう。(例：情報科学(芸情)(2014年度))



コースIDは以下の要領で指定してください。

2桁で学部等(例：DS)
2桁で実施年度(例：14)
2桁で教員のイニシャル(例：NF)
2桁で任意の通番(例：01)
全体の例：DS14NF01

自分でコース(授業)を登録した時、登録が異常終了した場合には下記の連絡先にご連絡ください。

連絡先：webct-admin@iii.kyushu-u.ac.jp

参考URL ▶ http://webct.kyushu-u.ac.jp/?page_id=124

【藤村直美 教授(教材開発センター長)】

著作権セミナー ～教育活動と著作権～

2014年6月6日(金)、伊都キャンパスの稲盛ホールにて、「著作権セミナー～教育活動と著作権～」を開催しました。講師にお招きした放送大学の尾崎史郎教授は、元文化庁長官官房著作権課マルチメディア著作権室長で、学校教育に係る著作権の問題についての第一人者です。



当センターがFDとして開催している吉田素文教授による電子教材著作権講習会は、10年前に吉田教授が尾崎教授の著作権セミナーを受けたことがきっかけとなっています。ICT活用教育の推進に伴い、eラーニング教材の作成・利用が増える中、著作権の取り扱いについての貴重なお話を伺うことができました。質疑応答では、参加者が普段抱えている疑問点に対して、分かりやすく解説いただき、大変有意義なセミナーとなりました。

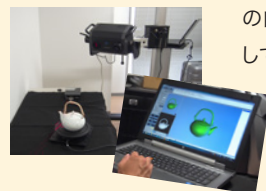
講義動画とスライド資料を九州大学YouTube(動画のみ)、iTunes U、ICERウェブサイトで公開しています。ぜひ視聴ください。

▶ <http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/icer> 【河野由起子(テクニカルスタッフ)】

次世代の教材開発を支える技術

～その3 3Dスキャナー(非接触3次元デジタイザ)～

今回紹介する2D/3D教材開発システムは、「3Dスキャナ(非接触3次元デジタイザ)」です。この装置は、現実の物体の形状をデジタルデータとして保存することが出来ます。例えば、3Dスキャナを利用して、歴史的に価値のある土器などの形状を測定し、デジタルデータとして保存することで、土器の形状を風化させることなく後世の人々に伝えることが出来ます。教材開発センターでは、これらのデジタル化した資料を活用して、紙の媒体では実現が難しかった3Dの特徴を活かした電子教材を開発していきたいと考えています。現在の教科書にも歴史的な資料として、土器などの画像が掲載されていますが、紙の資料では土器の裏側や立体的な形状の把握が困難です。3Dスキャナでデジタル化したデータを利用して電子教材を開発することで、歴史的な資料を立体的に閲覧することができ、学習効果や興味・関心などのモチベーション



の向上が期待できます。3Dスキャナを利用して電子教材を作成してみたい方がいらっしゃいましたら、私達と一緒に教材開発をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。

【金子晃介 助教】

教室系技術職員研修委員会の成果について

九州大学では、教室系技術職員研修委員会が大学全体の技術職員のさらなる能力開発のために、5年間ですべての教室系技術職員が受講することとして研修会を実施しています。この研修会では、相互理解を深めるために、参加者が日頃行っている職務内容をポスターセッションで紹介しています。しかしながら5年間で一巡するため、年度が異なると相互理解ができません。そこで年度に関わらず相互理解ができるよう、ポスターセッションの概要をまとめた予稿集を、差し支えが無い範囲で公開し、職員の相互の学習に資することとするものです。

詳しくはこちら ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/techstaff_training